

# 「つながる・支え合い」 たより

第17号

令和5年12月号



## 生活支援コーディネーターの活動から

### 地域で「つなぐ・つながる」②



「こういう物が欲しい」などのリクエストにも応えることができ、足の手段が確保できない家庭への移動販売のニーズは高まっています。

あれから三年が経過した令和四年には検証を実施することとなり、実際に「困りごと意向班」メンバーと民生児童委員が移動販売車に同行し、実態の調査を行いました。

「買い物難民」に対する対策として、既に町内を走っていた移動販売車を有効に活用する案があり、戸沢商店さん（松崎町）のご協力をいただき、令和元年に「移動販売マップ」を作成して運行していただいています。

「ご購入」と思いますが綾織町では、

▼持続可能な「移動販売マップ」の活用をめざした検証

### 移動販売「交流と語らいの場」

「移動販売マップ」の検証から、  
丸ごと相談員綾織地区 菊池 直美



実態調査の様子。利用者からの”生の声”を聞き、より利用しやすいようにメンバーで検討していきます。

▼実際に足を運ぶことで  
新たな発見があった！

現在、移動販売の運行は、週に二回となっており、移動販売車が来るのを楽しみに待っている人も多くいて、綾織地区での買い物難民の解消につながっています。そして、「移動販売マップ」で、集合場所を示したことでの効果がありません。

それは、顔を合わせる機会が増えたという事です。販売日に合わせて、利用者の自宅に集まり「お茶っこ」が行われていたり、買い物しながら世間話をして笑い合っていたり、コロナ禍ではなかなかできなかった日常のふれあいと、見守りが自然に行われているのが分かりました。

検証の結果、マップを更新することができ、これにより、新たな利用希望者の発見や、「こんな物を販売して欲しい」といったニーズの掘り起こしにつながっています。

▼移動販売がもたらす多くの効果  
移動販売は、単に食料品等を購入できる場とならず、「人と人が触れ合う場」「見守り・安否確認の場」「生活に彩りを与える場」など様々な機能を有しています。

例えば、「最近、見かけていないな」と情報があれば戸沢商店さんだけではなく、地域住民からも連絡をいただき、安否確認につながっています。

地域住民が「できること」を持ち寄ることで、支え合いが生まれていきます。年を重ねても住み慣れた地域で自立した生活が継続できるよう、丸ごと相談員の立場から取り組みを推進して行きたいと思えます。



令和5年12月号もくじ・・・ P1 移動販売「交流と語らいの場」（綾織町）／P2 シリーズ福祉行政の今④「わいわいかだってみなでスマイル」／P3 私たちの身近にある「福祉のお仕事」／P4 社会資源を活かした集い・通いの場づくり(遠野町)



# わいわいかだって みんなでスマイル

## ～こども食堂つながる交流会～



＜参考＞  
県内にある  
子ども食堂の数  
(R5.12現在)  
**89か所**  
※うち遠野市は  
2か所

▼初めての交流会を開催  
十二月十一日(月)、市総合福祉センターにおいて、こども食堂つながる交流会が開催され、市内にある交流食堂を運営している二つの団体メンバーのほか、地域団体の人や地域運営組織の役員の人など約三〇名が集まりました。  
この交流会は初めての開催とのことですが、これまで交流食堂は四か所で行われてきましたが、コロナ禍を経て実施団体が減少し、現在は二つの団体で取り組まれています。



▼それぞれのきっかけがあって

交流会では、団体の関係者と丸ごと相談員からそれぞれの団体紹介がありました。  
『青笹わいわい館かだるべ』では、「何気なく集まる場所があって、輪投げとかをやっていたけど、子どもたちの交流食堂を丸ごと相談員から紹介され、わいわい食堂に結び付いた。今や月一回、赤ちょうちん(居酒屋)も開いている。」。

一方、『スマイルランチ松崎』では、「元グループホームの施設を活用して多世代交流食堂を開催していたが、コロナ禍となり常設場所がなくなったことでパントリー形式に切り替えた。学校からの理解を得ることができたことで動きやすくなった。」など、食堂が始まった経緯や活動形態がそれぞれで進められていることがわかりました。

▼参加者の皆さんから  
それぞれの団体の発表のあと、質疑の時間となりました。参加者からは「(食堂の運営に)必要な資格や講習はどのようなものがあるか」、「設備をそろえるなど初期費用に対する助成金はあるのか」、「自分たちの地域でも交流食堂をやってみたいが、必ず毎月でなければいけないものか」などの質問がありました。



団体により、食品衛生に関する講義を受講したりと、食堂を運営する際には、特別な資格は不要だが、より安心・安全な場にするための知識を得ることは必要なようです。また、初期設備には、各福祉団体向け助成金が活用できる事例がありますので、丸ごと相談員に声をかけてみましょう。  
交流食堂は必ず毎月定例開催ということではありません。みなさんが都合の良いときに、例えば夏・冬の長期休業中に開催するというのもいいのではないのでしょうか。

### 活動の輪を広げましょう

市では、第2次とおのわらすっくプランに「子どもの貧困対策計画」を位置づけ、全ての子ども達が自分の将来に希望を持つことができる地域社会の構築を目指しています。  
子ども食堂活動が、市民の皆様にとり、活動の輪が広がっていくことを期待しています。  
(市子育て支援課)



▼次回の交流会は・・・

今回は、今回のアンケート結果をみながらテーマを決めるとのこと。「早速やってみたい!」「ことうきつきかけがあったのか」など、参加者の方々に何かしら伝わったようです。

次回開催日は未定ですが、ご興味がありましたら、あなたの地域の丸ごと相談員へ!

この指とくまれ!











とびあは町場の生活拠点

買い物や健康ポイント事業等で来店する高齢者の交流の場になっています！

遠野町は、中心市街地の立地を活かした地域資源や社会・産業資本などに恵まれた環境にあります。各行政区では、町内の社会資源を活用したサロンや健康づくり教室などのほか、いきいき百歳体操もふれあいホーム遠野や遠野駅裏サロン材木町など九か所を取り組まれていきます。遠野町は身近な場所に自力で歩いて行けるので、様々な活動の場所に参加しやすいところがメリットであります。

▼中心市街地としての環境を活かした地域活性化の推進

社会資源を活かした集い・通いの場づくり

丸ごと相談員遠野地区 佐々木隆一



地域の社会資源の有効活用

中心市街地では、公共施設を活用した集いの場・通いの場を展開中！

もなっているため、自然な形で声掛けを行うことができます。今後は、空き家を利用したミニサロンを住民主体で開催するなど、新しい展開について検討を行っています。

▼半世紀に及ぶ歴史のある「鍋城(かじょう)大学」

遠野町では、五十年の歴史がある「鍋城大学」が、遠野町まちづくり協議会(遠野地区センター)と遠野町老人クラブ連合会により開催されています。鍋城大学は、市内に在住するおおよそ六十歳以上の方を対象に高齢者の健康維持・増進、同世代の方々との交流や趣味の充実による生きがいづくりを目的としています。今年(七十年)の町民が受講を希望し、文化や歴史、健康づくり、社会情勢など様々な分野について、来年二月まで順次開催を予定しています。

《今後の予定》

▼十二月二十二日 『遠野山林について』

講師 岩手南部森林管理署遠野支署

▼一月十二日

『趣味の会発表会・町老連新年会』



人と人をつなぐ仲間の輪

久しぶりの野外学習で心も体もリフレッシュ

▼二月二十二日

『遠野の地域医療』

講師 調整中

※受講希望は、遠野地区センター(電話六二一四四一一)まで。

▼人と人とのつながりで、「我がまち」を楽しく

新型コロナウイルスの流行により外出機会が減少していた中で、集いの場や再開された鍋城大学は、参加者たちの交流と生きがいづくり、介護予防にもつながっています。これら通じた『人と人とのつながり』で、新型コロナウイルスの影響で薄れていた「顔の見える関係」が再構築され、住み慣れたところで支え合うまちづくりに引き続き取り組んでいきたいと思えます。

編集後記

「つながる・支え合いたより」十一月号(第17号)をお届けします。

一気に冬模様となり、通勤・通学が道路状況に影響される状況となりましたね。時間と心に余裕を持った行動に努めましょう。

来年も「支え合い」と「福祉でまちづくり」について、情報発信をしていきます。引き続きご覧いただきますようお願いいたします。

(支え合い支援担当)